

ドラッグインフォメーション

平成 30 年 4 月改訂

販売名	ヒマシ油「ヨシダ」	製造販売	吉田製薬株式会社						
局方名	日本薬局方 ヒマシ油								
洋名	Castor Oil	発売年月	1964 年 5 月						
一般名	ヒマシ油	薬価収載年月	1964 年 5 月						
剤形	液 剤	薬 価	10mL 14.20	健保適用					
規制区分	普通薬 日局	日本標準商品分類番号	872356						
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	2356001X1264	YJ コード	2356001X1264						
性状	無色～類黄色澄明の濃稠な油で、わずかに特異なおいがあり、味は初め緩和で後にわずかにえぐい。								
組成	本品はトウゴマの種子を圧搾して得た脂肪油である。								
効能効果	便秘症、食中毒における腸管内容物の排除、消化管検査時又は手術前後における腸管内容物の排除								
用法用量	ヒマシ油として、通常成人 15～30mL(増量限度 60mL)、小児は5～15mL、乳幼児は1～5mLを、それぞれそのまま又は水、牛乳などに浮かべて頓用する。なお、年齢、症状により適宜増減する。								
薬理作用	ヒマシ油はそのままでは刺激作用はなく、小腸で胆汁・NaHCO ₃ によって乳化され、リパーゼによって加水分解されてリシノール酸とグリセリンとなる。リシノール酸は腸のアルカリでリシノール酸ナトリウムとなり、これが小腸の神経終末装置を刺激して蠕動を亢め下痢を起こさせる。 リシノール酸は他の脂肪酸と同じく小腸を通るとき小腸から吸収されるので、大腸には作用しないと考えられている。グリセリン及び未分解のヒマシ油は大腸で粘滑性によって硬い便を軟化し排便を促す。作用は比較的速やかで、2～6時間後に水様便を下す。								
使用上の注意	<p>禁忌(次の患者には投与しないこと)</p> <p>(1)急性腹症が疑われる患者(蠕動運動亢進作用により腹痛等の症状を増悪するおそれがある)</p> <p>(2)痙攣性便秘の患者(蠕動運動亢進作用により腹痛等の症状を増悪するおそれがある)</p> <p>(3)重症の硬結便のある患者(下剤の経口投与では十分な効果が得られず、腹痛等の症状を増悪するおそれがある)</p> <p>(4)ヘノポジ油、メンマ等の脂溶性駆虫剤を投与中の患者(これらの薬剤の吸収を促進して中毒を 起こすおそれがある。)</p> <p>(5)燐、ナフタリンなどの脂溶性物質による中毒時(これらの中毒物質の吸収を促進するおそれが ある)</p>								
	<p>1. 重要な基本的注意</p> <p>小腸の消化吸收を妨げ全身の影響状態に影響を及ぼすことがあるので連用を避けること。</p> <p>2. 副作用</p> <p>本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <table border="1"> <tr> <td>種類\頻度</td> <td>頻度不明</td> </tr> <tr> <td>消化器</td> <td>悪心・嘔吐、腹痛等</td> </tr> <tr> <td>過敏症 注)</td> <td>過敏症状</td> </tr> </table> <p>注) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。</p> <p>3. 高齢者への投与</p> <p>一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。</p> <p>4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与</p> <p>(1)子宮収縮を誘発して流産の危険性があるので妊婦または妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。</p> <p>(2)ヒト母乳中に移行し乳児の下痢を起こすことがあるので、授乳中の妊婦には投与しないことが望ましい。</p> <p>5. その他</p> <p>即効性であるので、就寝前の服用を避けること。</p>				種類\頻度	頻度不明	消化器	悪心・嘔吐、腹痛等	過敏症 注)
種類\頻度	頻度不明								
消化器	悪心・嘔吐、腹痛等								
過敏症 注)	過敏症状								
取扱上の注意	<p>空気中に放置すると酸敗しやすい。</p> <p>貯 法: 気密容器</p>								
包装単位	500mL								
文献請求先	<p>吉田製薬株式会社 学術部</p> <p>東京都中野区中央5-1-10</p>								